

Title	リスク対策における企業の意思決定モデルの提案
Sub Title	
Author	今井, 寛文(Imai, Hirofumi) 大林, 厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2200号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2200

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	大林 研究会	学籍番号	80630070	氏名	今井 寛文
(論文題名)					
リスク対策における企業の意思決定モデルの提案					
(内容の要旨)					
<p>企業が必要なリスク対策を実施する上での障害はリスクマネジメント・サイクルのあらゆる段階において存在し、またその要因もさまざまなものが挙げられる。本論文ではその中でも、特に意思決定の場面に着目して、行われるべきリスク対策が行われない理由を明らかにし、そのような障害を取り除いた新たな意思決定モデルを構築することを試みた。</p>					
<p>企業がリスク対策の実施に関する判断を誤る原因としては、大きく分けて「リスクの測定に関する誤り」と「リスク処理手段の選択に関する誤り」のふたつがあり、さらにリスクの測定を誤る要因は「発生確率の測定の難しさ」と「損失規模の測定の難しさ」に分類される。</p>					
<p>本論文ではこのような問題を回避する意思決定モデルとして、通常の NPV や社会的 NPV など、以下に示す複数の判断基準を組み合わせたフローチャート型の意思決定モデルを提案した。</p>					
<ul style="list-style-type: none">①NPV 法による評価と感度分析②社会的 NPV による評価③リスクの保有の可否による評価④特定イベントの発生確率やその損失規模による評価⑤定性的な評価					
<p>さらに本論文では提案した意思決定モデルを用いて、単純化された仮想ケースにおけるリスク対策（地震対策・停電対策）の実施に関する意思決定を行うことで、モデルの評価を試みた。意思決定プロセスを実践する過程ではいくつかの課題も確認されたが、結果としては、企業への大きなダメージが予想でき、直感的には必要と思われつつも、従来の NPV による判断だけでは棄却されてしまうようなリスク対策を、本モデルは客観性・透明性の高い明確な意思決定基準をもって実施できることが確認できた。</p>					